

小グループ討議 『ケータイ・インターネット・マスメディアについて』

1 資料説明（県教委 澤田課長補佐）

- 基本的考え方
 - ・ 学校生活に携帯電話（スマホ）は必要ない
- 情報教育について
 - ・ 情報を活用能力を向上させる教育
 - ・ 情報モラル教育（発達段階に応じて）
- 実態調査より
 - ・ フィルタリング率の向上
 - ・ 生活習慣、学習理解とケータイ使用の相関関係について
 - ・ ICT 環境の整備状況（鳥取県はハード面の整備は進んでいる・全国比）
 - ・ 教員 ICT 活用指導力（低い結果となっている・全国比）

2 協議

- 教員の指導能力が低いことについて
 - 情報モラル教育などの研修が必要。
 - 自信のなさからの回答となっている
- ケータイ（スマホ）以外の機器について
 - ・ 音楽プレイヤー、ゲーム機でもインターネットの接続が可能
 - ・ 親が機器、システムの進歩についていけない
- 研修について
 - ・ 大人がもっと関心を持って、知っておく必要がある
 - 派遣制度やNPOを活用して研修機会を作って欲しい
- 人権感覚の向上について
 - ・ ネットいじめなど
 - ・ はじめは仲良くしたい気持ちから。（無関心、無関係ではいじめは起きない）
- 親としてどう向き合うか
 - ・ ルールを決める（親のものを貸す、誓約書、メリット・デメリットを話し合う）
 - ・ 守れない時がチャンス（ルールを決めて終わりでない。定期的なふりかえりを）

小グループ討議『食育について』

☆アレルギー対応についての現状（除去食・エピペン等について）

米子市：米子市でも境港市寄りの学校ではアレルギー対策を行っている（300人規模の学校で4～5人）結局は親の負担も大きい

倉吉市：毎年3月にアレルギーの調査を行っている。別メニューを作ったり食べない事で対応している。小学校での情報は中学校にも伝えており。アレルギーが多い児童については弁当持参。ただ宗教上の理由で食べない場合もあり、個別対応は出来る範囲内で行っている。

境港市：小学校ではアレルギーの問題は聞いていない。中学校でセンター化になるとどうなるか不安。

境港市：小学校7校、中学校3校、今はセンター化していないので細かい対応が出来ている。センター化になると対応が大変と思っている。

倉吉市：毎月初めにメニューを出している。月に一度給食献立で担当者が集まって会議をしている。倉吉市では蕎麦は出さない。倉吉市はセンター1箇所（注）で小中全校分を作っている。

日野町：日野町でも蕎麦は出さない。甲殻類も出さない。給食を作るのは全部普通に作り学校のクラスで担任が取り除く（センターが民間になったため）。メニューにも何が入っているか全部記載してある。メニューがダメな時は弁当持参で対応。

境港市：学校でエピペン（注射）のマニュアルがあり、注射を打つ先生の順番まで決まっている。

県教委：昨年の東京での事故により各校マニュアルを作成している※1。東京での事故は児童がおかわりをしたことにより起こり、自分でエピペンを打たなかった経緯があると聞いているが詳しい内容は調査中らしい。

※1・・・「学校におけるアレルギー児童への対応について(鳥取県スポーツ健康教育課)」のPDF参照

☆飽食（食べ残し）について（現状と解決へ向けての取り組み例）

倉吉市：無理やり食べさせた問題もあったが、今はそこまでやってない。学校に任せている。各小学校の残菜率と食器の破損率を出している。残菜がない学級は元気も良く意欲が高く食器の破損も少ない。

境港市：メニューにより残菜の差がある。メニューはカロリー計算により決めているとのこと。センターの場合、小3年まで、6年まで、中学生と分かれている。家では食べないけど学校では食べている子どももいる。一口でも食べるようにしたり、最初から量を減らしたりクラスによって対応している。作り方で残らないようにする対応が出来ないか聞いてみたい。

日野町：カロリーの調整はしている。ただ栄養士が代わったら残菜が多くなったし、まずくなった。

倉吉市：倉吉の栄養士は地産地消とたくさんの食材に触れてほしいという考えなので、ある程度は残してもOKなところもある。小さい時に多くの食材に触れさせる。子どもにメニューを考えさせて採用することもしている。

日野町：卒業生メニュー・給食週間の取組をしている。地産率も90%から40%に下がった。

中学校ではお弁当手作りし、友達と交換することにして※2。

※2・・・夏休みの宿題として取り組んでおり、子どものコミュニケーション、食べ物への考え方、相手の事を考える等のねらいがある。弁当の交換相手は先生が決めるが、ク

ラスメートが食べるので下手な物は作れないと思うようだ。子どもに考えさせることは食育であり、金額の上限下限の設定はない。

倉吉市：弁当の交換については、プライバシーの問題も考えられる。家庭の批判になるのでは？等色々と問題はあるがとても面白い取組み。自分の食べるものがいかに相手に喜んでもらえるか。

県教委：お弁当は家庭の事情もあるし大変。小規模な学校だから出来るメリットがある。自分で作ることによって食材の事、大変さを知り、残菜率は減っていくのかもしれない。

参考 給食時間の状況

	(校数)	小学校						中学校		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
①	20分未満	0	0	0	0	1	1	8	8	8
②	20分以上～25分未満	5	5	6	8	7	7	8	8	8
③	25分以上～30分未満	2	2	1	0	0	0	7	7	7
④	30分以上～35分未満	1	1	1	0	1	1	21	22	22
⑤	35分以上～40分未満	4	5	5	6	6	7	16	15	15
⑥	40分以上～45分未満	60	63	63	63	62	62	1	1	1
⑦	45分以上～50分未満	56	53	52	51	50	50	0	0	0
⑧	50分以上	6	6	6	6	6	6	1	1	1

・分校1校(3, 4, 5, 6年児童がいない)

・1年、5年児童がいない学校(分校以外)各1あり

※H24 学校・保健・安全食育状況調査より 調査学校：小学校(135校) 中学校(62校) 分校を含む

小グループ討議 『いじめについて』

1 資料説明

2 質疑応答

『いじめ・不登校総合対策センター』について

- 対策本部は、センター長、職員 2 人の 3 人態勢で行っている
- センターでは保護者に向けての発信がなかなか難しい
→ P T A のつながりをいかして県 P から発信していく方法がある（参加者からの提案）
- 24 時間対応しているが、相談が少ない（自分からはなかなか言えないにでは？）
- P T A に向けての研修は未だ無理
- 近年のいじめの現状は、件数は分からないが、横ばい傾向 むしろ増加

3 討議の内容

対応のポイントは？

- ・ いじめは、絶対だめって事を保護者に伝える
- ・ 警察も一緒に入って対応する
- ・ 子どもはもちろん親も知る事
- ・ 人権侵害・侮辱・脅迫などの人権問題につながる
- ・ 人間の尊厳を損なう行為や、人間の大切な部分を傷つける事は絶対にダメ！
- ・ トラブルがあっても自分達の地域や親同士で話しをする機会が少ない→ネットワークが必要
- ・ 親に言えば、なんとかしてくれるという思いが強い！
- ・ 当事者で話しをする
- ・ 現場からにげない事
- ・ 本人がいじめられているというその気持ちを大切に

今後の P T A の取り組みは？

- ・ こまかい学級懇談をひらく！たとえば 10 秒の愛など
- ・ 家庭の中から、声かけなどをどんどんしていく事が大切
- ・ O B の人達のサポートも必要
- ・ 当事者は分かるが、学校からの情報がわかりにくいので先生や会長（役員）などは、こまめに話しをする。悪い情報はどんどんほしい

小グループ討議『学力向上について』

1 資料説明

2 協議

塾に対する見解は？

- ◆子どものペースと親の指導だけではなく、塾に通うことで、習慣もやる気もできた。
- ◆親も野球をしたいならあの学校が良いと進学校を勧め、その進路のために塾へ行かせた。勉強するようになった。
- ◆親から塾へ行ってみては？と言った事は無かったが、子どもから行きたいと言わせるコツは別に無いと思う。
- ◆繰り返しの問題は解けるが、応用問題が解けない。親の指導の工夫も苦勞も限界がある。1ランク上を目指すなら塾。先生に相談するもとても頼りない。
- ◆塾も学校も本人のやる気次第だと思う。
- ◆東京都のある区では土曜授業とボランティアさんによる放課後塾（毎週金曜）を行っている。
- ◆塾は行かないよりは行ったほうが良いと思う。行った（ロス）時間を家庭でやればなおよし。申し込んでも気分をやめてしまう補習や講習とお金をかけた塾などは気持ちやモチベーションが違う。
- ◆日南では家庭学習頑張るウィークを毎月行っている。習慣化にしていくこと。田舎の環境によっては塾よりもその方が良い。
- ◆塾は選択肢としてはあり。学校も授業数が限られた中で何かあると計画通りに出来ない。
- ◆米子などは塾での他の子との情報交換などで刺激を受けることもよくある。高校生の先輩から話を聞くことも良い。

家庭学習のありかた

- ◆福井県の学力が良いのは宿題は必ずしてからでないとクラブ活動に行かせない等、家庭学習がしっかりとして聞かれているからだと聞く
- ◆生活リズムと学力に関係があると言うならば、家庭学習ができない家庭環境の子どもがあるので？現に同じテストの同じクラスの結果の表なりグラフなりには平均点の山から外れた子どもたちがまんべんなくいる。
- ◆高校になれば復習が絶対に必要。

学校教育について

- ◆学校の良さは何か。つまずいている子どものその場所は人それぞれ。子ども同士の教え合い。教えると学び直す力がつく。
- ◆先生の質によっても相性によっても子どもたちは左右されやすい。エキスパート先生に期待する

その他

- ◆野球ばかりの息子は、進学もする気もなく就職したが仕事に行けばそこで新たに資格を取らなければならぬ。その時に頑張る心と基礎学力がなければ、なかなか難しい。
- ◆アスペルガーの娘を一年間養護学校に通わせた時には大変苦勞したが、学力は普通の兄よりも良く、何も無い兄の方に（やる気を起こすのに）手を焼いた。
- ◆東京の大学院へ行った甥っ子は小さい頃に化石の魅力に惹かれてそれを追いつけた。何か一本でも追い求めるのは良いと思う。

《まとめ》

*学力向上に繋げるには？

- 学習塾などやる気と習慣のつくものに頼ることもあるのでは
- 生活環境の見直し
- いろいろな経験談を通して目標を親子で見据えてみる
- 1ランク上を目指す気持ちが大事。
- 行政やボランティアの組織的な協力
- 学校や先生の取り組みにもう一つ工夫を期待し、家庭もそれに協力していくことが大切なのは。

～土曜日授業について～

市町村の教育委員会が管轄しています。

土曜日授業がなくなり、日数を限られた中で行うので凝縮されたような感じがあり逆に負担ではなかったか？

また指導要領の成果は？

その見直しの時期に来ているかもしれない。

教育懇談会（全体懇談）について

土曜日授業について

I 県教委から説明

文部科学省「土曜日授業に関する検討チーム」中間まとめ【概要】・・・PDF参照

他県（東京都墨田区）での取り組み・・・墨田区教育委員会HPをご覧ください

※土曜日授業とは月曜日などに振替を行わないで土曜日に授業を実施する形態を言います。

II 質疑応答

無し

III ワークシートに従ってグループ毎に意見交換

学習指導要領の改訂に伴い、現在文部科学省では、土曜日に授業を行う「学校週6日制」について、地方自治体の判断で土曜日授業が行いやすくなるよう検討されています。

保護者として現状をふまえながら、子どもたちの教育環境をこれまで以上に豊にするための意見交換会としたい。

IV 発表

子どもたちの土曜日の過ごし方（現状）

<ul style="list-style-type: none">■ダラダラ過ごしていることが多い■部活、スポ少、クラブ■ゆっくりしている■家族との時間■趣味の時間、平日できないことをしている	<ul style="list-style-type: none">■TV、読書、ゲーム、ipod、ビデオ鑑賞■地域のイベント■友人と遊ぶ■午前中は宿題（午後から宿題）■家の手伝い、農作業
---	--

土曜日授業のメリット

<ul style="list-style-type: none">■学力向上に向けた時間確保■勉強をするのであれば学力向上に有効か■土曜日に特別授業を集中させ、平日は勉強させることで学力向上につなげる■週5日制の受け皿等、地域間格差の解消■地域とのつながりが生まれる■平日に余裕が生まれる（子どもも教職員も）	<ul style="list-style-type: none">■生活リズムが崩れない■家の人の負担が減る■家でんびりできる（親か？）■家でダラダラするより学校へ行ってくれる方が安心■授業時間の確保・授業以外のものがやりやすくなる■保護者が土曜勤務で留守になる家庭は助かる■振替がないので保護者が平日休まなくて良い
--	---

土曜授業の使い方

<ul style="list-style-type: none"> ■現在減っている社会体験的なもの（校外学習等） ■保護者や地域の人に参加して欲しい企画 ■地域活動 	<ul style="list-style-type: none"> ■コミュニケーション能力を高める活動 ■学力の底上げ、補習的なこと ■保護者が学校に来るきっかけとなる活動
---	---

土曜授業の不安・疑問

<ul style="list-style-type: none"> ■低学年児童の体力 ■親子の時間が減る ■実施する学校・市内学校が混在すれば保護者に不安が生じる ■平日の授業への影響 ■子どもへの負担 ■習い事やスポーツの時間確保が困難 ■給食はあるのか ■何故必要なのか ■国立、私立学校との比較は？ ■社会体育はどうなるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ■市町村毎でやり方が変わるのはいくらか ■日曜日に部活をすることになると子どもの休みがなくなる ■学校の託児化（保護者の意識） ■地域での子どもの参加行事がやりにくくなる ■具体的なメリットの提示 ■土曜休みになれている子どもたちに受け入れられるか ■地域とのつながりが希薄になるのでは ■土曜の地域参加が強制的になってくる
---	---

土曜日授業の課題

<ul style="list-style-type: none"> ■教職員の勤務体制 ■学校側の取り組みが増え、教員の負担増 ■結局子どもの体力・心の負担増となる ■土日休みで生き返る子どももいる ■親の負担増（朝ゆっくりできない） ■部活時間の短縮 ■家庭の協力なくしてはできない 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域・家庭が受け皿になっていない ■目的や必要性の明確化と共有 ■5日制の総括がまず必要 ■土曜授業のねらいが不明確 ■スポーツ大会等他機関との日程調整 ■社会体育の練習がますます加熱
--	--

その他の意見

<ul style="list-style-type: none"> ■まずは週5日制の理念の徹底と検証を ■するなら一斉に ■学力ばかりではなく、地域力、産業を支える子どもたちも必要 ■何故必要かわからない ■加熱しているスポ少に一石を投じることになっ 	<ul style="list-style-type: none"> ■中学校は部活があるので不要ではないか ■イベントにするのか、学力向上に使うのか？ ■先生の意見を聞いてから導入して欲しい ■先生も楽しみながらできるように ■小中一緒でないと保護者は困る ■先生にも自分の子どもと地域優先に
--	---

て良い ■夏休みを増やすべきではないか ■子どもの意見を聞いて欲しい	■PTAの協力が必要 ■校長会としても検討したい
--	-----------------------------

総括

- *週5日制の総括をした上で、土曜日授業の議論に入って欲しい。
- *目的を明確にして取り組むべき。
- *実施にあたっては、県全体で足並みをそろえて『子どもたちのために』取り組んで欲しい。
- *賛成意見がやや多い。